



_CALYPSO

取扱説明書

(株) アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

ng500/API500互換のAD/DAコンバーター

Wes Audio _CALYPSO (カリプソ) は、API500フォーマットで動作するオーディオインターフェイスです。最先端の8チャンネルAD/DAコンバーターを備えており、I.A.C経由でng500規格の電源ラック (Wes Audio _TITAN) と完全に統合されています。標準的なAPI500互換の電源ラックでも、2つのDB25コネクタを利用する事で使用できます。_CALYPSOは、500シリーズエンクロージャで動作するように設計されたAD / DAコンバーターです。

1、オーバービュー

- ・ 24ビット変換
- ・ サポートされているサンプルレート : 44.1kHz、48kHz、88.2kHz (SMUX) 、96kHz (SMUX)
- ・ 超低ジッタクロック
- ・ ワードクロックIN / OUT
- ・ IACコネクタを介した_TITANとの完全統合 (すべての信号をシャーシとの間でルーティングする必要があります)
- ・ 2つのDB25コネクタにより、500シリーズシャーシとの統合が可能
- ・ 2つのコンバーターのリファレンスレベル (+4dBu / -10dBV)
- ・ LCDスクリーンとチャンネルメータリング

2、設置と互換性

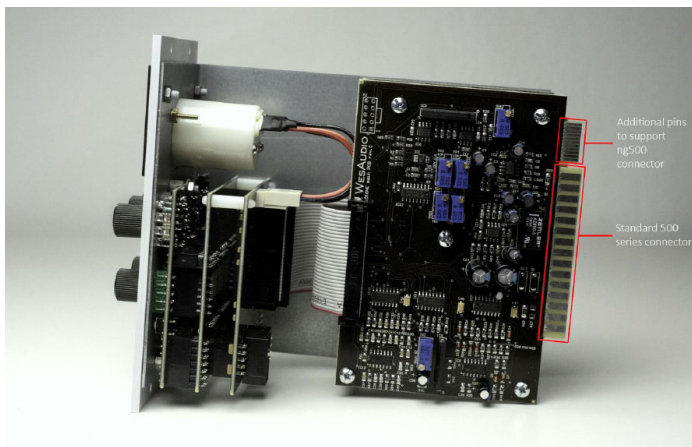
WesAudioの_CALYPSOはAPI500シリーズ (APIアライアンス) 用のモジュールです。単体では使用できませんので、必ずAPI500シリーズ互換の電源ラックにマウントしてご使用ください。WesAudioの_TITAN電源ラック (ng500互換)も使用できます。

！！重要な注意事項！！

・ ラックに本機をセットアップする場合は、モジュールにダメージを与えないために、完全に電源を抜いた状態で行ってください。またラックネジは通常ご購入される電源ラック側に付属しています。

ユニットは電力消費のためかなりの量の熱を発生します。適切な空気循環を可能にするために、シャーシの上下に空きスペースを残すことを強くお勧めします。理想的には上に1Uスペース、下に1Uスペースを空けてラックマウントしてください。

モジュールの設置について

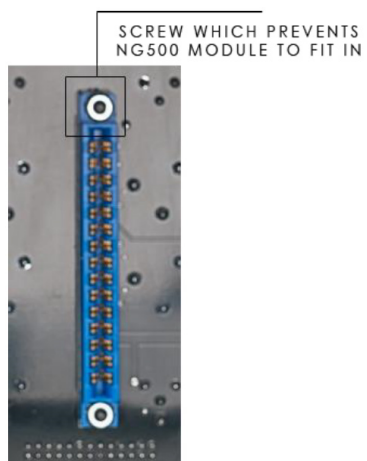


ng500(Next Generation 500)では、標準のAPIモジュール共通のコネクターの上に専用のng500コネクターが装備されています。ng500対応の電源ラックである_TITANなどを利用すると、このコネクターによりGConプロトコルを通信できるようになり、設定のリコールなどの情報をやりとりできます。

以下のAPI500 互換ラックでご使用になりたい場合には、必ず事前にご相談ください（そのままでは挿すことができません）。

- Rupert Neve Designs 500 series Rack
- Aphex 500 series Rack
- 旧型のBAE Rack

*大抵のケースでは電源ラックのスロット上側のねじを外すことで WesAudio の ng500 モジュールを挿入することができます。



3. 製品スペック

消費電力: 150mA per rail

寸法 : 76x133x158mm

入力(ADC):

Freq. response - 20Hz-20kHz +/- 0.1dB

THD+N (unweighted): -108dB (0.0004%)

Dynamic range (unweighted): 116dB

Gain Settings: +4 dBu / -10 dBV (selectable per input)

Maximum Input Level: (+4 dBu) +20 dBu

Input Impedance: 10K Ohms

Connector type: DB25/IAC

出力(DAC):

Freq. response - 20Hz-20kHz +/- 0.1dB

THD+N (unweighted): -105dB (0.0005%)

Dynamic range (unweighted): 115dB

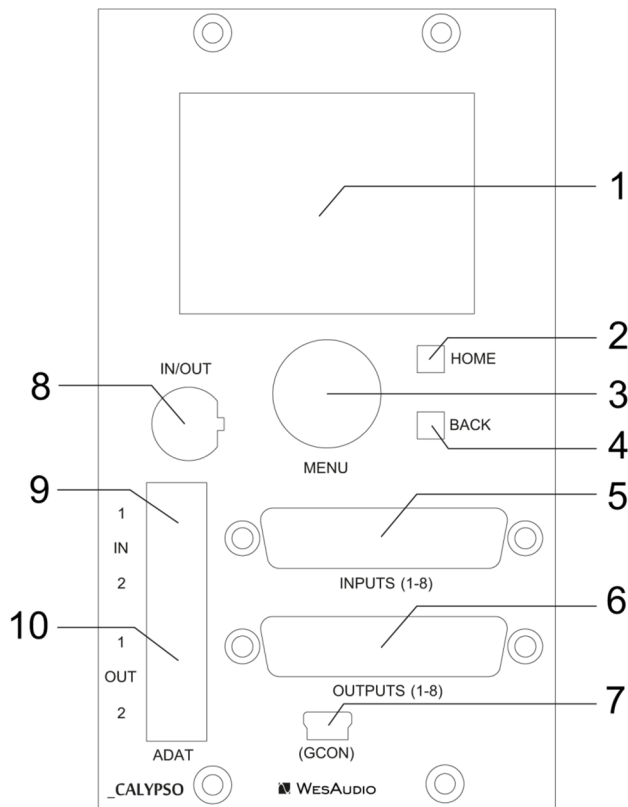
Gain Settings: +4 dBu / -10 dBV (selectable per output)

Maximum Output level: (+4 dBu) +20dBu

Output Impedance: 100 Ohms

Connector type: DB25/IAC

4.フロントパネル



- 1) LCDスクリーン
- 2) HOMEボタン-メニューでこのボタンを押すと、メイン画面に戻ります
- 3) MENUエンコーダー
- 4) BACKボタン-メニュー内で前のメニュー項目に戻ります
- 5) DB-25 8チャンネル入力
- 6) DB-25 8チャンネル出力
- 7) USBソケット- _TITAN接続が使用されていないときにプラグインまたはファームウェアのアップグレードに接続するために使用されます
- 8) ワードクロックIN / OUTソケット
- 9) ADAT INコネクタ-2つのADAT INソケット
- 10) ADAT OUTコネクタ-2つのADAT OUTソケット

5. I.A.C.について

I.A.C.(Internal Audio Connector)はWesAudio _Titan電源ラックの内部オーディオコネクタです。

5.1. I.A.C.とは?

I.A.C. -内部オーディオコネクタは、_TITANシャーシのロット番号10の横にある特別なソケットです。このコネクタは、ロット番号1から8への信号のルーティングを可能にします。_CALYPSOは、個別の取り外しが容易なPCBを介してこの規格を実装するため、_TITANシャーシとの完全なオーディオ統合が可能です。_TITANシャーシ内のすべてのモジュールから信号を送受信するために追加のケーブルワイヤリングを行う必要がなく大変便利です。



5.2. I.A.C -ソースセレクション

_CALYPSOからI.A.C.コネクタは、_TITAN内のモジュールに信号をルーティングします。各モジュールへの入力には2つの信号ソースがあります。これにより「_TITANシャーシのモジュールで2つの信号ソースを受信できる」可能性があるため、_TITANで各モジュールの入力ソースを選択できます。

- I.A.C. (内部コネクタ) 、
- リアパネルのXLR INソケット

信号ソースは、高品質のリレースイッチを使用して選択され音質の劣化がありません。さらにこれらの信号のソース

は、リモートアプリケーション（GCon Manager）またはDAW上の_CALYPSOプラグインを介して、スロットごとに独立してコントロールおよびリコールすることができます。ルーティングをリコールできると、セットアップに多くの利点をもたらされます。様々な便利な活用法は「I.A.Cを使用したセットアップのバリエーション」の項で説明されています。このセクションを参照して、ミキシングワークフローを改善してください。

モジュールの出力信号は、常にI.A.Cに送られます。コネクタ（_CALYPSO A/D - IN）、および_TITANシャーシのXLRに同時に接続します。（リレースイッチを介してルーティングを変更することはできません。）

5.3. I.A.C – シグナルフロー

下の図は、I.A.Cを使用している_TITANおよび_CALYPSO間の信号フローを示しています。



- SLOT **X** - スロット1~8
- _CALYPSO CH **X** - _CALYPSO チャンネル1~8
- このセットアップでは、_CALYPSOチャンネル番号は常に_TITANスロット番号に等しいことに注意してください。

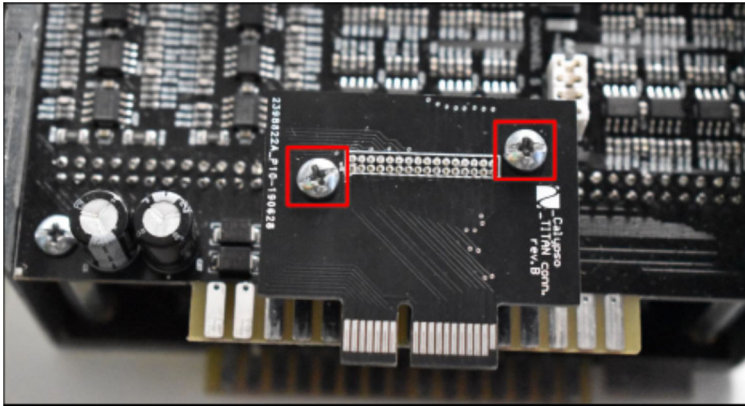
5.4. I.A.C – How to remove and why?

_CALYPSO からI.A.Cコネクタを取り外したい場合には2つの理由が考えられます。

1、API500シリーズの特定の電源ラックに適合するために取り外す必要があるかもしれません。_CALYPSOは、他の多くのシャーシタイプに対して正常にテストされていますので、I.A.C.が問題になることはありませんが必要であれば非常に簡単に取り外しできます。

2、内部コネクタを_TITAN内で使用したくない場合は、_CALYPSOをフロントパネルDB-25ソケットを使用した標準AD / DAコンバーターとして使用します。

I.A.Cコネクタを取り外すには 画像にマークされているネジ2つを外してください。



6. セットアップ

この章では、さまざまなシャーシタイプの個別のセットアップを含む、すべての基本的な構成について説明します。

6.1. チャンネル番号

Calypsoは8チャンネルのAD / DAコンバーターです。以下に注意してください：

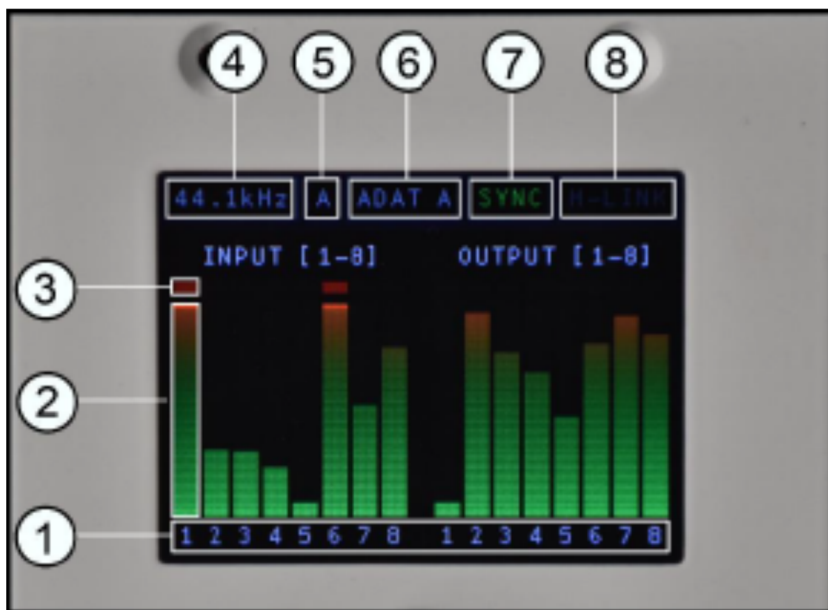
- 88.2 kHzまたは96 kHzのサンプルレートでAD / DAの8チャンネルすべてを使用するには、4本のADATケーブルを使用する必要があります（2 INおよび2 OUT）。
- 44.1 kHzまたは48 kHzのサンプルレートでカリブソを使用するには、ユニットが正しく動作するために必要なケーブルは2本（1 INと1 OUT）だけです。
- サンプルレート88.2 kHzまたは96kHzが選択され、2本のADATケーブル（1 INおよび1 OUT）のみが使用される場合、最初の4チャンネルのみが使用されます。

6.2. LCDスクリーンについて

この章では、ユニットのフロントパネルからアクセスできる基本的な操作パターンについて説明します。

6.2.1 メインスクリーン

この章では、メイン画面に表示されるすべてのフィールドについて説明します。 詳細については、以下の図を参照してください。



- 1) チャンネル番号。
- 2) メーター- _CALYPSOは非常に高速で正確なPPM計測をサポートします。
- 3) クリップインジケータ。
- 4) 現在アクティブなサンプルレート設定。 詳細については、サンプルレートの章を参照してください。
- 5) サンプルレート設定のソース（サンプルレートの章の詳細）、可能な値は次のとおりです。
 - a 「A」-オートモード、サンプルレートはクロックソースに基づいて周辺機器から検出されます。
 - b 「M」-サンプルレートはマニュアルで選択されます。
 - c 「H」-サンプルレートは、DAWプラグインを介してDAWホストによって設定されます。
- 6) クロックソース-詳細については、クロックソースの章を参照してください。

7) クロック同期ステータス :

- a 「SYNC緑」 - クロック同期、
- b 「SYNC赤」 - クロックが同期していません。

8) H-LINK - DAWプラグインがこの特定のハードウェアインスタンスに接続されているかどうかを示します。

6.2.2. メニューナビゲーション

_CALYPSOのすべての機能には、ユニットのメニューから簡単にアクセスできます。メニューにアクセスするには、「MENU」エンコーダーを押します。メニューセクションをスクロールするには、メニューノブを回します。

特定の設定を変更するには :

- 「MENU」エンコーダーを押し、
- 特定の設定が強調表示され、
- 「MENUエンコーダー」を移動して値を目的の状態に変更し、
- 「MENU」エンコーダーを押して、変更を適用します。

前のメニュー項目に戻るには、「BACK」ボタンを押します。

「HOME」ボタンを押してメニューを終了し、メイン画面に戻ります。

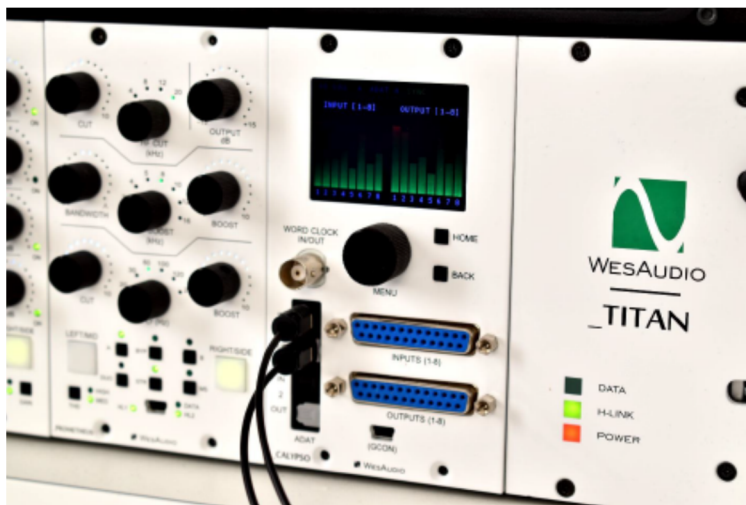
メニューでアクセス可能なすべての設定については、次の章で説明します。

6.3. コンバーターセットアップ

この章では、_CALYPSOの主なパラメーターを設定する方法について説明します。

6.3.1. デジタル接続

_CALYPSOは、ADATデジタル接続をサポートするAD / DAコンバーターです。つまり、スタジオ環境内で使用するには、この特定の拡張機能をサポートするオーディオインターフェイスが必要です。



6.3.2. サンプルレート

_CALYPSOのサンプルレートは、以下から管理できます。

- ユニットのフロントパネル、
- VST2 / VST3 / AU / AAXプラグインから（互換性のあるDAW - 例えば：Pro Tools、Cubaseなど）



_CALYPSOは、サンプルレートの構成に関して次のオプションを提供します。

•**MANUAL** -サンプルレートの手動設定。プラグインから設定するか、メニューから設定できます。オプションは次のとおりです。

- ・ 44.1 kHz
- ・ 48 kHz
- ・ 88.2 kHz
- ・ 96kHz

•**AUTO** -クロックソースパラメーターに基づいて周辺機器から現在設定されているサンプルレートを読み取る自動モード。

・このモードは、「クロックソース」が外部周辺機器の読み取りをサポートするように設定されている場合にのみアクティブになります（クロックソースがADAT A、ADAT B、またはWord Clockの場合）。

・重要：一部のインターフェイスはダブルクロックに関する情報を提供しません。実際には、マスタークロック（オーディオインターフェイスなど）を44.1 kHzから96kHzに切り替えると、_CALYPSOが96 kHzではなく48 kHzに切り替わります。ダブルクロッキングは提供されていません。その場合、サンプルレートは次のいずれかでなければなりません。

- ・ 手動設定、
- ・ またはDAWプラグインがHOSTモードで使用される場合があります。以下を確認してください。

•**HOST**-このモードはDAWプラグインを介してのみアクセス可能で、その場合、サンプルレートはDAWセッションから読み取られます。

*注意すべきこと：プラグインが切断されると、ユニットは同じサンプルレートを設定し、「MANUALモード」に入ります。

6.3.3. クロックソース

_CALYPSOは、いくつかの異なるクロックソースをサポートしています。

•**INTERNAL** -このモードでは、_CALYPSOはマスタークロックソースとして機能し、ADATケーブルを介して_CALYPSOに接続されたオーディオインターフェイスを同期する必要があります。このモードでは、このモードを選択すると、フロントパネルの「WC - Word Clock」ソケットが自動的に「OUT」に切り替わります。

•**ADATA / ADATB** - _CALYPSOは、ADATA / ADATB INを介して提供されるクロックに同期されます。このモー

ドを選択すると、フロントパネルの「WC - Word Clock」ソケットが自動的に「OUT」に切り替わります。

- WC -このモードでは、_CALYPSOはフロントパネル「WCワードクロック」から提供されるクロックに同期されます。このモードを選択すると、フロントパネルのWCソケットが自動的に「IN」に切り替わります。

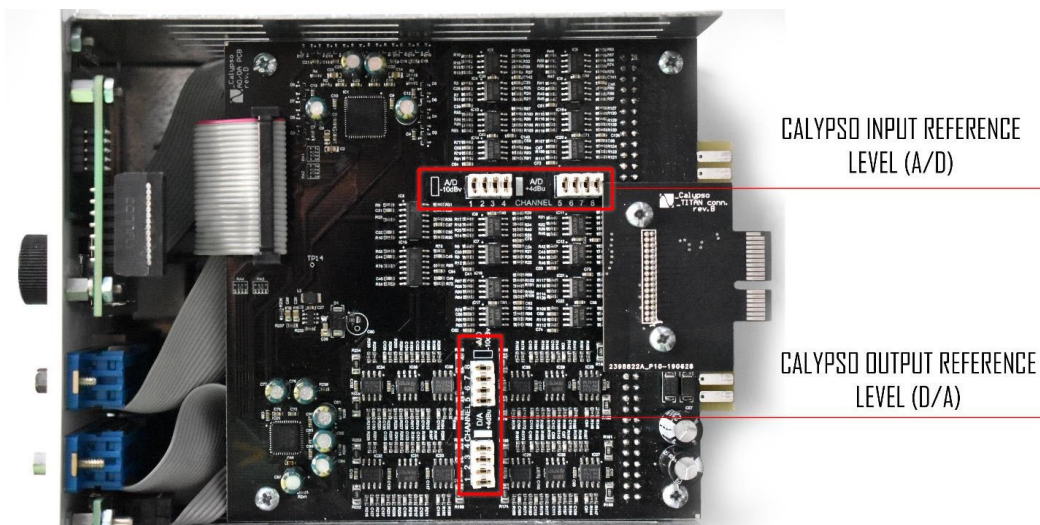
「サンプルレート」クロックソースは次のように設定できます。

- ユニットのフロントパネル
- VST2 / VST3 / AU / AAXプラグインから（互換性のあるHOST、例えばPro Tools、Cubaseなど）



6.4. リファレンスレベル/ゲイン

AD / DAコンバーターとしての_CALYPSOは、+ 4 dBu / -10 dBVの2つの基準レベルをサポートします。これらの各レベルは、PCBにあるジャンパーを介して任意の入力または出力に適用できます。



デフォルトでは、ユニットは+4 dBu基準レベルで構成されています。ジャンパ設定により基準レベルを

+ 4dBuまたは-10dBVに設定できます。+ 4dBuまたは-10dBVのリファレンスレベルを、任意の入力または出力に個別に適用できます。

6.5. _CALYPSOをng500シャーシで使用する

この章では、ng500シャーシの最後の2つのスロット内の_CALYPSOのさまざまな構成と使用例を示します。

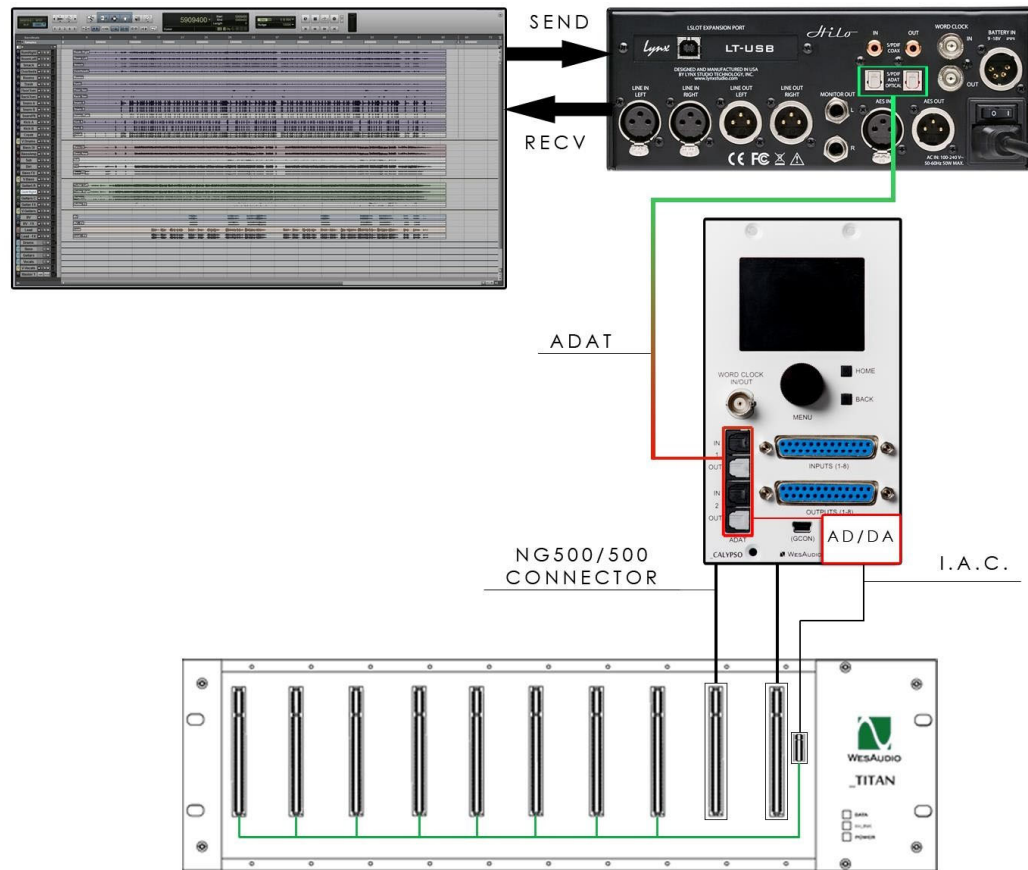
_CALYPSOとI.A.C.を統合して使用するメリットは、追加のケーブルを使わずにスロット1~8に個別に送信できることです。I.A.C.の特定のスロットが有効になっている場合、_CALYPSOチャンネル1 OUT (D / A) に信号を送信し、スロット1のモジュールに直接送信します。この信号はこのスロットのデバイスで処理され、_CALYPSOチャンネル1 IN (A/D) に戻されます。

6.5.1. I.A.C.リコールによるセットアップのバリエーション

この章では、ng500シャーシ-TITANシャーシ内で_CALYPSOを使用したいいくつかの可能なセットアップについて説明します。_TITAN内のすべての構成はI.A.C.を利用します。I.A.CコネクタとDAW _CALYPSOプラグインによるリコールの利点は、ワークフローを自動化し、DAWセッションのロードを通じてオーディオルーティングを呼び出すことができる点にあります。

以下の章では、簡単でわかりやすいアプローチから始め、後でルーティングリコールの可能性について詳しく説明します。

6.5.1.1. シンプルなミキシングセットアップ



このセットアップでは、_CALYPSOは「ハードウェア・インサート」管理のコントロールセンターのように働きます。信号を特定のスロットI.A.C.にルーティングします。そのスロット（_CALYPSOプラグインまたはCGonManager _CONFIGアプリケーションからアクセス可能）を有効にする必要があります。この場合、信号の流れは次のようになります。

○ DAWのHWインサート ⇒ ADAT Y ** OUT ⇒ _CALYPSO D / AX * ⇒ SLOT X * IN ⇒ SLOT X * OUT ⇒ _CALYPSO A / DX ⇒ ADAT Y ** IN ⇒ DAWのHWインサート

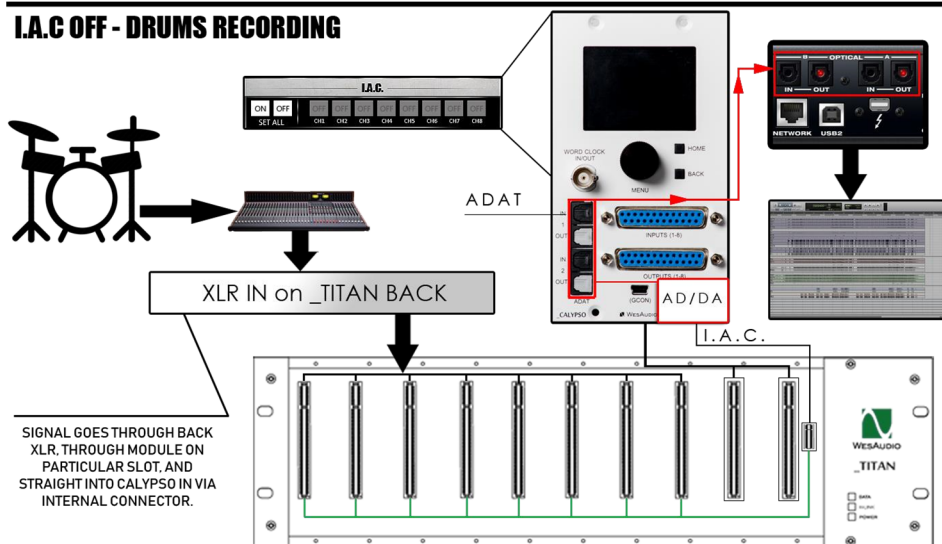
(*) X -_CALYPSOチャンネル番号と_TITANスロット番号、

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

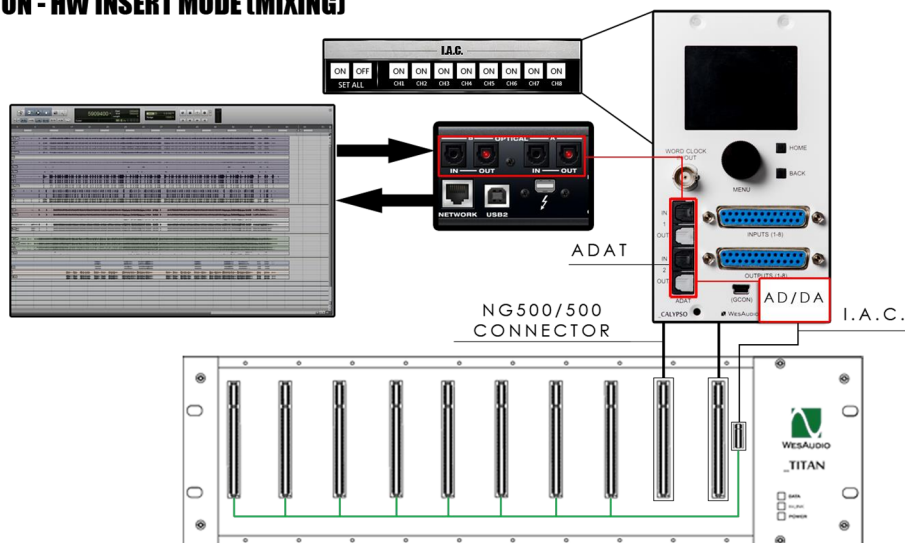
追加のワイヤなしでスロット1~8のモジュールに非常に便利にアクセスでき、ADATケーブルだけでワイヤリング可能です。

6.5.1.2. レコーディングとHWインサート・ミキシングモードのセットアップ

I.A.C OFF - DRUMS RECORDING



I.A.C ON - HW INSERT MODE (MIXING)



このセットアップでは、上記のアイデアが拡張され、_CALYPSOを録音インターフェイスに簡単に切り替えることができます。

●I.A.Cコネクタをすべてのチャンネルをオンに設定した場合の信号の流れは以下のようになります。

○ DAWのHWインサート ⇒ ADAT Y ** OUT ⇒ _CALYPSO D / AX * ⇒ SLOT X * IN- ⇒ SLOT X * OUT ⇒ _CALYPSO A / DX ⇒ ADAT Y ** IN ⇒ DAWのHWインサート。

(*) X - _CALYPSOチャンネル番号と_TITANスロット番号、

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

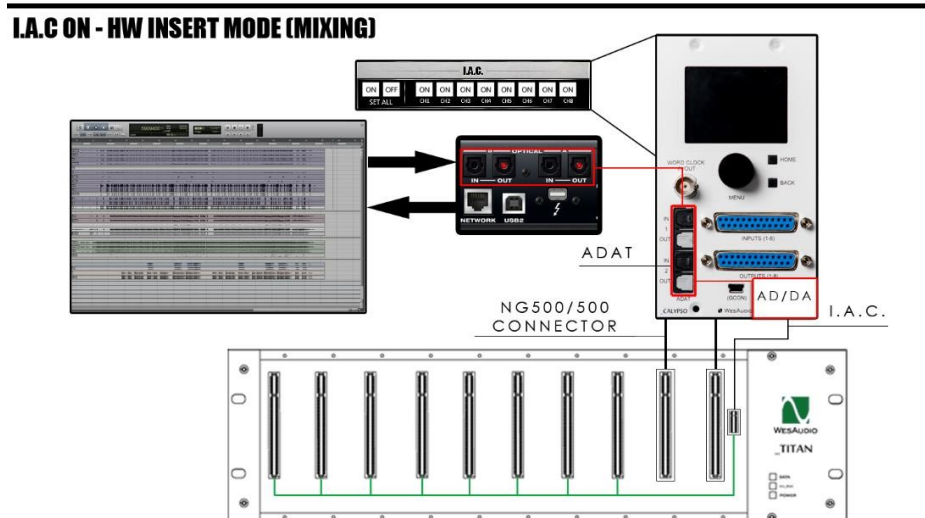
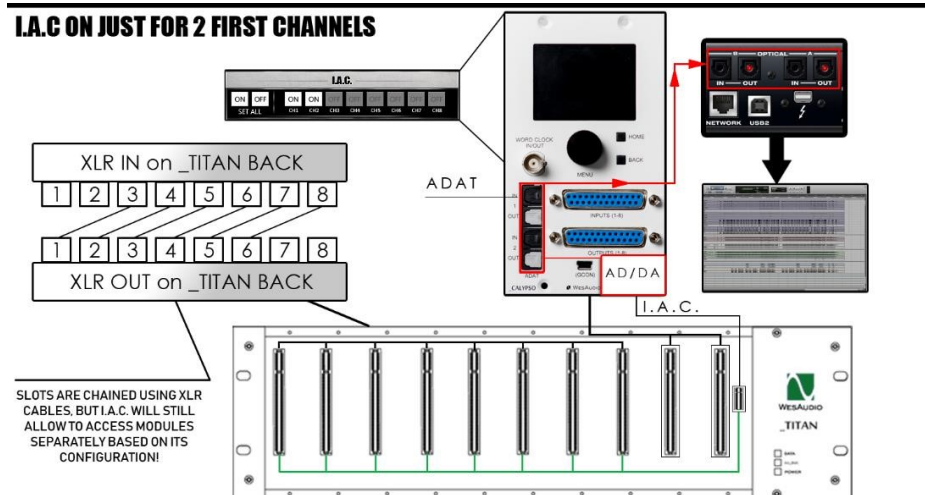
●I.A.Cコネクタをすべてのチャンネルをオフに設定した場合の信号の流れは以下のようになります。

○リアパネルのXLR X * ⇒ SLOT 1 IN ⇒ SLOT 1 OUT ⇒ _CALYPSO A / D X * ⇒ ADAT Y ** IN ⇒ DAWのHWインサート

- (*) X - _CALYPSOチャンネル番号と_TITANスロット番号、
- (**) Y - オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

このセットアップは、セッション間の簡単な切り替えを重視するスタジオに最適です。たとえば、録音セッションは進行中ですが、1日のほんの一部で、セットアップを変更せずにさまざまなミキシングプロジェクトに戻ることができます (RECALL!)。この機能は本当に便利です!

6.5.1.3. HWインサートモードとユニットチェイン



このセットアップでは2つのモードを切り替えることができます。

- 各モジュールに個別にアクセスできるHWインサートモード（「簡単なミキシングセットアップ」の章で説明）
- ユニットのチェイン

このようなモードは、たとえばプロジェクトのミキシングとマスタリングを切り替えたい場合や、一部のセッションでモジュールをチェインで使用したい場合に便利です。

•**I.A.Cコネクタをすべてのチャンネルでオンにした場合の信号の流れは以下のようになります。**

○ DAWのHWインサート⇒ ADAT Y ** OUT ⇒ _CALYPSO D / AX * ⇒ SLOT X * IN ⇒ SLOT X * OUT ⇒
_CALYPSO A / DX ⇒ ADAT Y ** IN ⇒ DAWのHWインサート

(*) X - _CALYPSOチャンネル番号と_TITANスロット番号、

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

•**I.A.Cコネクタの最初の2つのチャンネルだけオンにした場合の信号の流れは以下のようになります。**

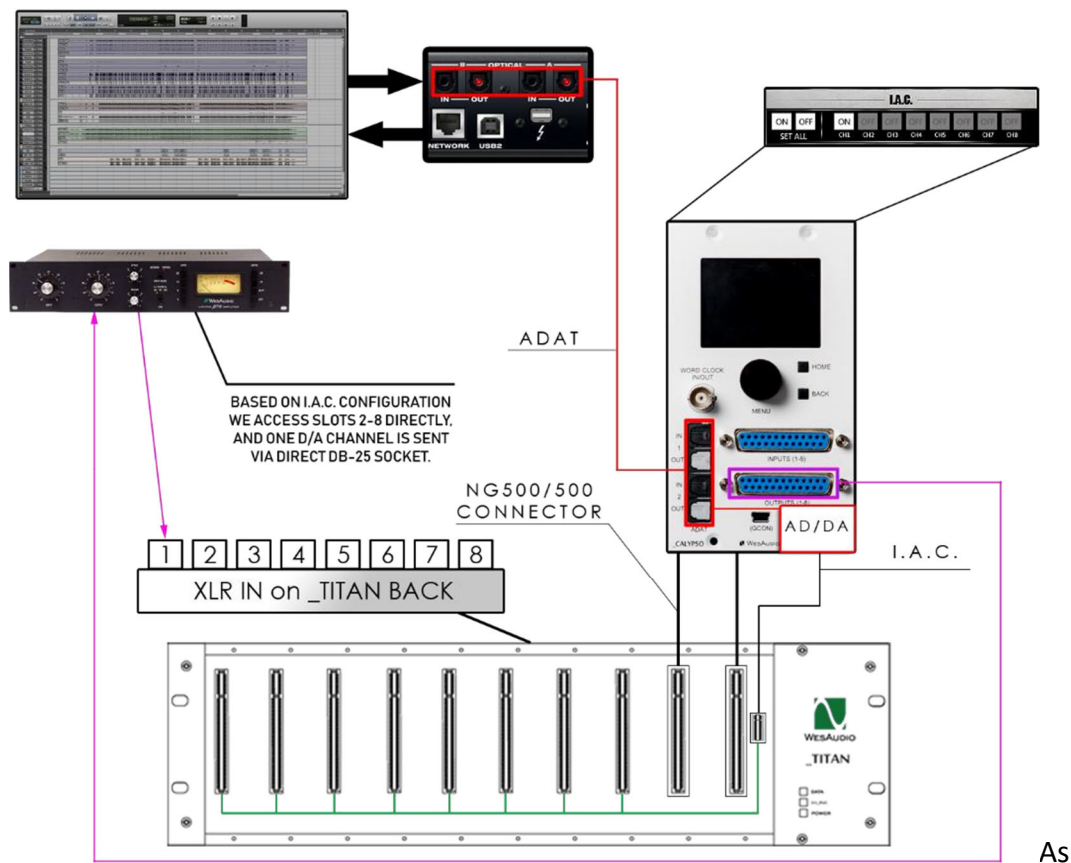
スロットはXLRケーブルを使用してチェイン接続し、I.A.Cはその構成に基づいてモジュールに個別にアクセスできます。

○ _CALYPSOチャンネル1および2のDAWから送信⇒ ADAT Y ** OUT ⇒ _CALYPSO D / A CH1-2 ⇒
SLOT 1-2 IN ⇒ SLOT 1-2 OUT ⇒ SLOT 3-4 IN ⇒ SLOT 3-4 OUT ⇒ SLOT 5-6 IN ⇒ SLOT 5-6 OUT ⇒
SLOT 7-8 IN ⇒ SLOT 7-8 OUT ⇒ _CALYPSO A / D CH7-8 ⇒ ADAT Y ** IN ⇒ DAWの受信信号

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

NOTE; _CALYPSOのチャンネル3~6は引き続き各スロットから信号を受信することに注意してください。

6.5.1.4. _CALYPSO と アウトボード機材



「簡単なミキシングセットアップ」の章で説明した通り、I.A.C.コネクタはモジュールに独立してアクセスすることができます。_TITANにアウトボード機材をモジュールと内部でチェイン（連結）したい場合で、_CALYPSOのI/Oも使用したい場合には、2つの重要な注意事項があります。

- 1、_TITANシャーシ内のモジュールは、チェーンの最後にある必要があります（各スロットの「OUT」はI.A.C.コネクタを介して_CALYPSO IN チャンネルと配線されているため）
- 2、信号は、_CALYPSO フロントパネルの DB-25 OUTPUT コネクタを介してアウトボード機材に送信する必要があります。

●I.A.C.コネクタをすべてのチャンネルでオンにした場合の信号の流れは以下のようになります。

○ DAWのHWインサート-> ADAT Y ** OUT-> _CALYPSO D / AX *-> SLOT X * IN-> SLOT X * OUT-> _CALYPSO A / DX-> ADAT Y ** IN-> DAWのHWインサート。

(*) X - _CALYPSOチャンネル番号と_TITANスロット番号、

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

●I.A.Cコネクタの最初のチャンネルだけオンにした場合の信号の流れは以下のようになります。

○ スロット2~8のモジュールは、上記のように通常アクセス可能です。

DAWへのHWインサート-> ADAT Y ** OUT-> Calypso CH1 D / A (OUT) -> DB-25 OUTPUT->

アウトボード機材-> XLR IN SLOT 1-> SLOT 1 IN-> SLOT 1 OUT-> _CALYPSO A / D CH1-> ADAT Y ** IN->

DAWのHWインサート

(**) Y -オーディオインターフェイスのADATチャンネル。

6.6. 標準的なAPI500電源ラックでの使用

_CALYPSOは、標準的なAPI500シリーズの電源ラック（シャーシ）でも使用できます。 スロットに挿入するだけで、DB-25コネクタを使用して信号をルーティングできます！もちろん、この場合にはI.A.C. 機能は動作しません。

7. ソフトウェア

ソフトウェアパッケージは、

<http://www.wesaudio.com/download>

からダウンロードできます。現在サポートされているプラグインのタイプとプラットフォームを確認するには、上記のリンクに従ってください。

7.1. インストール

WesAudioソフトウェアパッケージをインストールするには、<http://www.wesaudio.com/download> にアクセスして、ソフトウェアの**最新バージョン**をダウンロードしてください。

7.1.1. Windows

インストーラーアプリケーションを起動します。この特定のインストーラーに関するシステム警告が表示された場合は、それらを「無視」してください*、インストールするコンポーネントを選択します**。

- これが最初のインストールである場合、すべてのWesAudioデバイスをワークステーションから取り外してください。
- USBドライバーがインストールされると、アプリケーションはすべてのデバイスを接続する必要があることを通知します。指示に従ってください。
- USBドライバーのインストールがトリガーされると、ユーザーはコンピューターを再起動するよう求められます。USBドライバを正常にインストールするために必要な手順です。
- コンピューターの再起動がトリガーされると、このインストーラーは起動中に再び起動します。何らかの理由で再起動後にインストーラーが起動しない場合は、同じインストーラーを手動で再度起動してください。

7.1.2. OSX

OSXアーキテクチャとUSBデバイスの処理は概念がはるかにシンプルであるため、インストール手順中にすべてのデバイスを接続するだけです。

インストーラーアプリケーションを起動します。この特定のインストーラーに関するシステム警告が表示された場合は、それらを「無視」してください*（「オプション」をクリック（またはマウスの右ボタン）でコンテキストメニューを開き、もう一度インストールをトリガーする必要があります）。

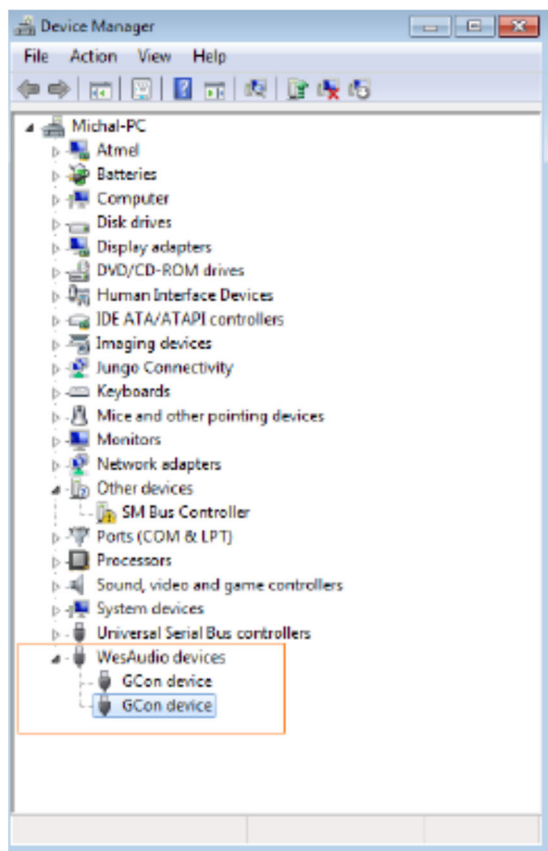
7.1.3. トラブルシューティング

インストール手順で何かが失敗する場合は、support @ wesaudio.comのサポートにご連絡ください。

以下に、問題の調査に役立ついくつかの症状と説明を示します。

「プラグインのドロップダウンメニューにデバイスが見つかりません」

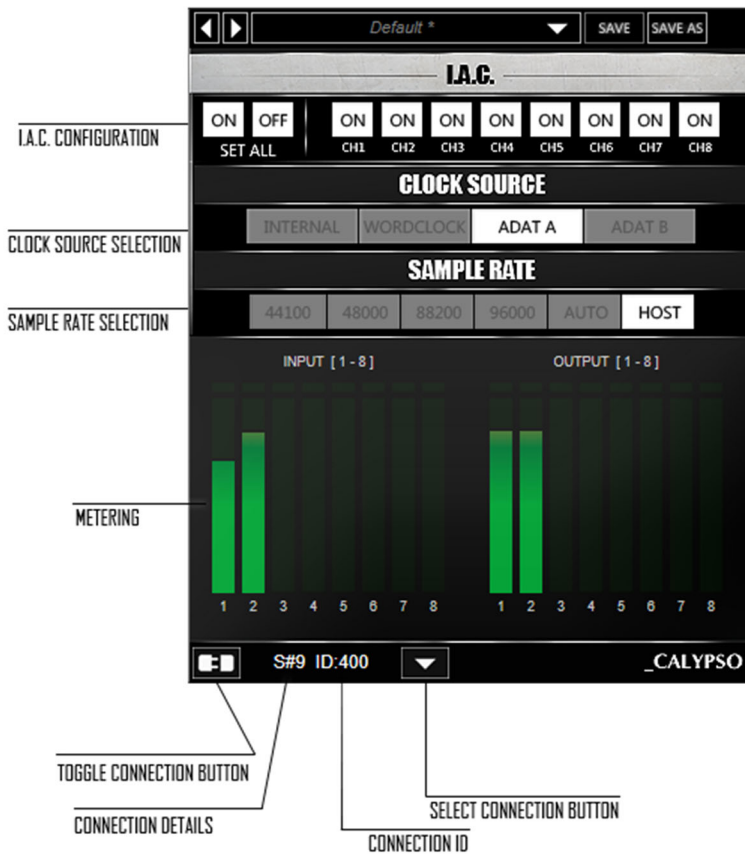
残念ながら、何十もの根本的な原因が存在する可能性があります。 Windowsマシンでは、USBデバイスがシステムレベルで正常に接続されているかどうかを確認することが非常に重要です。「コントロールパネル->システム->デバイススマネージャー」で確認できます。



** WINDOWSの場合、HWユニットとの通信に重要なUSBドライバーをインストールする必要があることに注意してください。最初のインストール時にのみ必要な手順であり、このオプションはソフトウェアのアップグレード時に自動的に無効になります。

7.2. プラグイン

_CALYPSOユニットは、専用のプラグインを使用して管理できます。プラグインを使用すると、ユニットのパラメータを変更し、すべてのメーター情報を視覚化できます。



1) SELECT CONNECTION BUTTON : このボタンを押すと接続されているすべてのデバイスが表示されます。エレメントIDの「ドロップダウン」リストが表示されない場合は、GConプロトコルをサポートするデバイスが検出されていない状態です。

2) TOGGLE CONNECTION BUTTON : ボタンは接続ステータスのオン/オフを切り替えます。ボタンは、「SELECT CONNECTION BUTTON」を使用してIDが選択されている場合にのみ機能することに注意してください。

3) CONNECTION DETAILS :

a. USB -モジュールは、フロントパネルのUSB端子を介して接続されています。

b. S#X - _Titanフレームで使用可能した場合に、モジュールとフレーム間の内部接続プロトコルが使用されていることを意味するスロット番号。

注：このフィールドには、接続ステータスも表示されます。

- c. **ON**-フォント色=白、文字のスタイル=標準：接続が確立されています。
- d. **オフ**-フォント色=グレー、文字のスタイル=標準：接続は確立されていません。
- e. フォント色=グレー、文字のスタイル=斜体：接続プロセスが進行中です。

「接続中」状態が長時間（5秒以上）表示され、プラグインがユニットを制御できない場合は、次のことを意味します。

- ・HWユニットがワークステーションに接続されなくなった
- ・何らかの理由でオペレーティングシステムによってHWユニットが切断された
- ・support@wesaudio.comに相談する必要があるその他の理由がある

4) **Connection ID**：接続されたHWユニットの接続ID。

5) **METERING**：INおよびOUTでチャンネルの現在のメータステータスを表示します。

「MID-SIDEメータリング」では、MIDおよびSIDEチャンネルのステータスがそれぞれ表示されます。

6) **Sample Rate Selection**：「サンプルレート」の章を参照してください。

7) **Clock Source Selection**：「クロックソース」の章を参照してください。

8) **I.A.C. Configuration**：_TITANシャーシ構成の内部オーディオコネクタを管理できます

- a. チャンネルごとに個別に（ボタンch1からch8）管理
- b. または、“SET ALL”ボタンを使用して、同時にすべてのチャンネルを管理

I.A.C. -内部オーディオコネクタの詳細については 別章を参照してください：。

7.3.メモリー

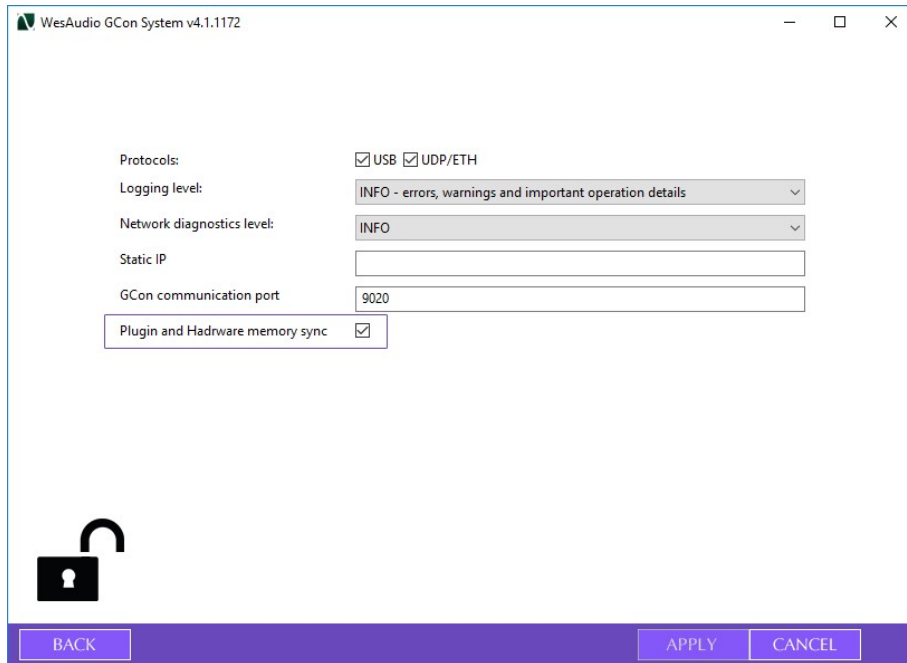
7.3.1. 接続による同期について

新しいプラグインインスタンスがDAWに読み込まれた場合、その状態はまだ変更されません。つまりパラメーターはまだ変更されていません。ユーザーが接続IDを設定してハードウェアユニットへの接続を開始すると、プラグインは、利用可能な構成プリセットを含むパラメーターの現在の状態をユニットからダウンロードします。たとえば、_PROMETHEUSプラグインと_PROMETHEUSハードウェア間の接続がトリガーされ、プラグインが変更されていない状態にある場合、_PRESET_A状態と_PRESET_B状態を含むすべてのパラメーター状態がプラグインにダウンロードされます。

7.3.2. プラグインとハードウェアのメモリー同期

一般に、GConManager / _SETTINGSアプリケーションを介して変更できる2つの操作モードがあります。

- ・ **synchronization enabled** (同期が有効)
- ・ **synchronization disabled** (同期が無効)



7.3.2.1. Synchronized memory enabled (同期が有効)

これは、「Plugin and Hardware memory sync」(プラグインとハードウェアメモリの同期) オプションで有効になっているデフォルトの設定であり、ユニットとプラグインメモリ間をダイレクトリンクします。この場合、プラグインをハードウェアに接続すると、ユニットが保存できる高速プリセットの数 (A / Bなど) を含むすべてのパラメーターが同期されます。そのため、プラグインが切断された場合に (手動のトグルボタン、DAWセッションのクローズなどにより) すべてのハードウェア構成は変更されません。

7.3.2.2 Synchronized memory disabled (同期が無効)

この場合、プラグインは永続的な実装の独立した形式として機能します。つまり、HWユニットがプラグインで動作するように接続されている場合、プラグインからのすべての設定はデバイス (またはハードウェアからプラグイン) に適用されますが、プラグインが切断されるとユニット構成は以前の状態に戻ります (コネクショントグルボタン、セッション終了など)。そのため、実際にはハードウェアユニットの内部メモリはソフトウェアの影響を受けません。この機能は、ユーザーが異なるモードに頻繁に切り替える必要がある場合、たとえばセッションを呼び出す必要がある場合に役立ちますが、ユニットはセッションがロードされずに使用されます (ユニットはセッションのロードを通じて簡単に呼び出すことができ、セッションが閉じられたときに、ユニットはリコールが発生する前の状態に戻ります)

7.4. マルチホストサポート

フロントパネルのUSB端子に直接USBケーブルで接続されたデバイスは、1つのHOSTアプリケーションで同時に検出されます。 WesAudioプラグインを起動する最初のHOSTアプリケーションはGConの通信エンジンを有効にし、その後はマスターとして機能します。 マスターアプリケーションは、利用可能なすべてのWesAudioユニットを開き、すべてのデバイスハンドルを通信目的で保持します。 このアクティビティにより、他のHOSTアプリケーションが同時に起動され、直接USB接続を使用してWesAudioユニットと通信できなくなります。 このような状況は、2つの異なるホストが同時に起動され、ReWireインターフェースを介して接続されている場合に実際に発生する可能性があります。 そのアプローチでは、WesAudio製品のプラグインホストとして機能できるホストは1つだけです。

7.5. GCon マネージャー

GCon Managerは、互換性ユニット間で構成管理を行う汎用アプリケーションです。

以下のようにアプリケーションフォルダデータに配置されています。

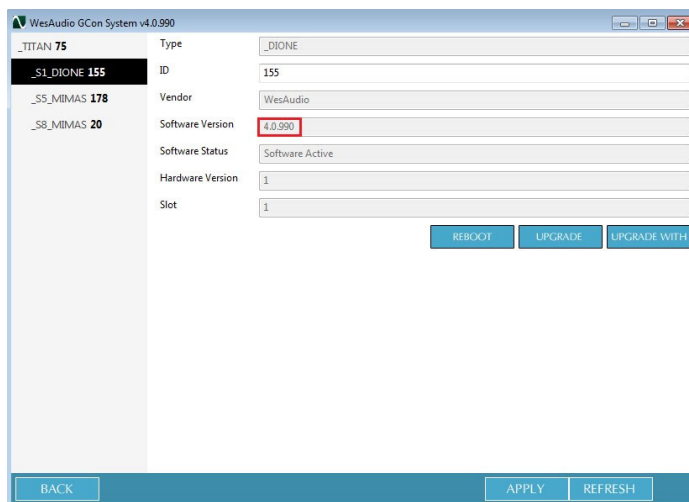
-OSXの場合：「/ Applications / WesAudio / GConManager」

-WINDOWSの場合：インストール段階で指定されたフォルダー。

デフォルトでは、「C : / Program Files x86 / WesAudio / GConManager.exe」。

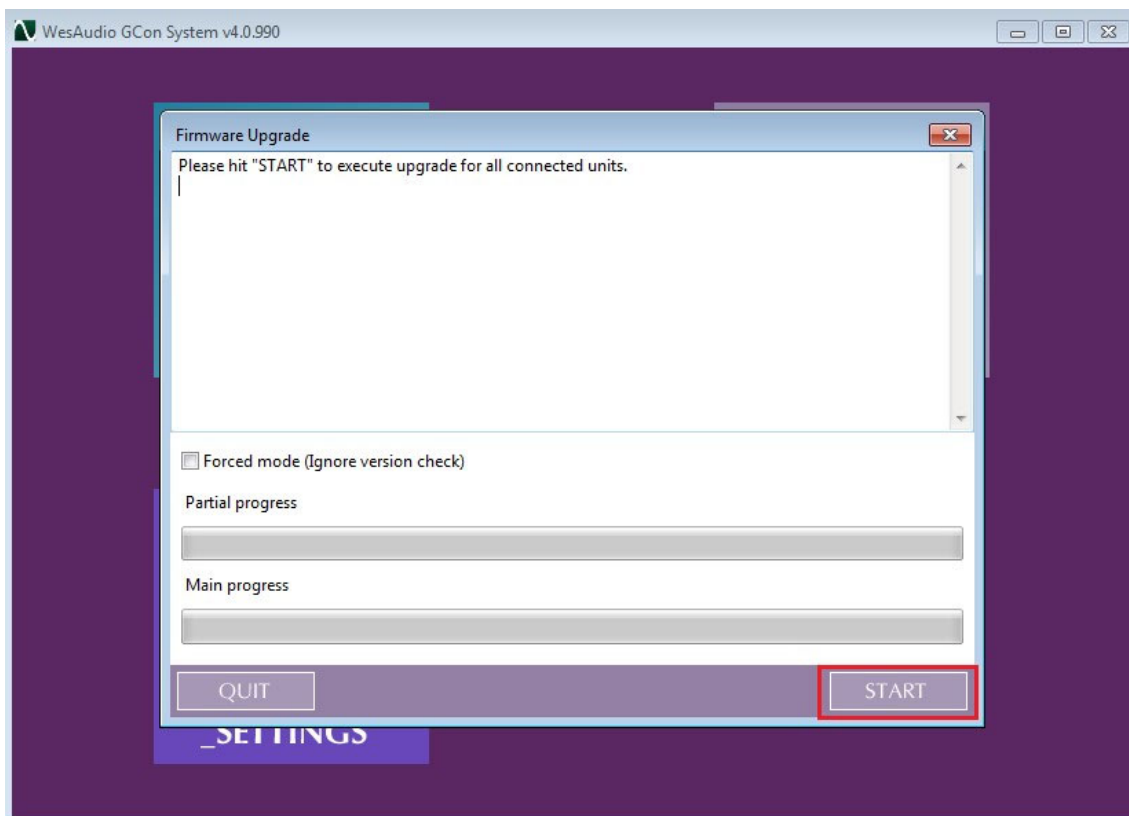
7.5.1. ファームウェア・アップグレード

各デバイスは、ホストアプリケーションとリモートモジュール間の互換性を示す特定のバージョンでワークステーションにレポートを送ります。ファームウェアのアップグレードを確認するには、GCon Manager CONFIGアプリケーションにアクセスしてください



7.5.2. ファームウェア・アップグレードの実行

ファームウェアのアップグレードを実行するには「GConManager upgrade」に進み、「Start」ボタンを押します。これにより、ホストソフトウェアが最新では無いと確認されたすべてのモジュールのアップグレード操作がトリガーされます。



8. 略語と用語

GCon –アナログデバイスの完全な管理と呼び出しを可能にする高速通信プロトコル。これは管理用のプロトコルであり、オーディオ信号の転送は行いません

ng500 –WesAudioが提唱する次世代500シリーズ(new generation500)。

ng500コネクタ– 追加のピンで、標準的なAPI500シリーズをを拡張する特別なコネクタ。